

2024年10月3日

K u d a n株式会社

Kudan CEO のインタビューが電子デバイス産業新聞に掲載されました ～人工知覚（AP）技術の採用拡大に注目～

当社の代表取締役 CEO の項のインタビューが、2024年10月3日号の電子デバイス産業新聞に掲載されましたのでお知らせいたします。本インタビューでは、「人工知覚技術の採用が拡大 — ロボやデジタルツイン分野に注力」というタイトルのもと、当社が提供する人工知覚（AP）技術の進展とその応用に関する内容が取り上げられており、Kudan がリードする SLAM（Simultaneous Localization and Mapping）技術に加えて、自律移動・自動運転を含むロボティクス分野、デジタルツイン分野における当社の取り組みも紹介されています。

当社は今後も、人工知覚（AP）技術のさらなる普及拡大に加えて、注力分野であるロボティクスやデジタルツイン分野における自律システムの強化や DX の推進に尽力してまいります。

<<メディア情報>>

電子デバイス産業新聞 9 面（2024年10月3日号掲載）

「人工知覚技術の採用が拡大 — ロボやデジタルツイン分野に注力（別添）」

【K u d a n株式会社について】

Kudan は、人工知覚（AP）のアルゴリズムを専門とする深層技術の研究開発企業です。人工知覚（AP）は、人工知能（AI）と相互補完する技術として、機械を自律的に機能する方向に進化させるものです。現在、Kudan はロボティクス・デジタルツイン・自動運転などを中心に幅広い次世代ソリューションに対して技術ライセンスを提供しています。

詳細な情報は、Kudan のウェブサイト (<https://www.kudan.io/jp/>) をご参照ください。

■会社概要

会 社 名：K u d a n株式会社

証券コード：4425（東証グロース）

代 表 者：代表取締役 CEO 項 大雨

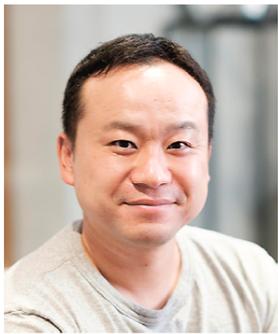
■お問い合わせ先は[こちら](#)

インタビュー

Kudan(株)
代表取締役CEO

項 大雨氏

Kudan(株)は、空間認識の能力を与える人工知覚(AI)アルゴリズムを開発している。SLAMをベースにした高性能の自己位置推定および環境地図作成関連の技術を提供しており、ロボティクスやデジタルツイン分野を中心に採用が拡大している。今回、代表取締役CEOの項大雨氏に話を伺った。



まずはAPについて

て教えてください。

項 一言で言うと「機械の眼」となる。しかし、AIを用いた画像認識な

どではなく、APは学習を基本的に必要とせず、人間の視覚と同様に、直感的に空間や位置を把握し、機械に方向感覚や運動感覚を与える。その中核技術である「Kudan

と協調して動作する」とが可能だ。

項 SLAMの総合企業として様々な技術を活用していることが挙げられる。具体的には、カメラ画像を高速で処理するVisual SLAMに

おいてDirect Visual SLAM・Indirect Visual SLAMの両方の技術を用い、レーザー光を周囲

応できるが、得られる情報量が少ない。当社は、こうしたそれぞれのSLAMが持つ特徴や強みを融合し、用途に応じた最適なソリューションを提供できる。

項 現在の取り組みは、

項 大きく2つの分野に注力している。1つ目が、自律移動や自動運転などを含めたロボティク

ロボットの発売を決定した。また、ロボタクシ

送ロボット、二足歩行ヒューマノイドロボット、特殊撮影用ドローン、月面探査ロボットなどを開発する企業ともプロジェ

クトが進んでいる。もう1つの注力分野がデジタルツインだ。欧州の大手企業では、当社の技術によってエネルギー

開発面での取り組みは。

項 先に述べたような取り組みを下支えするものとして、Kudan SLAMのアルゴリズムと半導体の融合についても取り組んでいる。よく使われるプログラムパターンを回路としてハードウェア化することで、処理を高効率化するもので、半導体関連のパート

ンネルと連携している。また、デジタルツイン関連では、物体の自動検出が可能で技術「セマンティック・デジタルツイン技術」を開発した。従

人工知覚技術の採用が拡大

ロボやデジタルツイン分野に注力

に照射して把握した3次元情報を処理するLiDAR SLAMの技術も有している。Visual SLAMは、得られる情報量が多いが、LiDAR SLAMほど正確には距離が測れず、夜間や照明と天候の急激な変化には不向きである。一方、LiDAR SLAMは、様々な環境に対

ス分野だ。直近では、屋内外双方での走行が可能で配送ロボットを手がけるZyous Technologies(中国・北京市)とパートナーシップを締結したほか、産業オートメーションを手がけるNEXC O Mグループ(台湾・新北市)が当社のVisual SLAM技術を導入した次世代の自律移動

ナードとして、リアルタイム・エヌビディア、ケイデン・デザイン・システムズ、テキサスインスツルメンツ、シノプシス、インテルと連携している。また、デジタルツイン関連では、物体の自動検出が可能で技術「セマンティック・デジタルツイン技術」を開発した。従

て。項 現在当社のビジネスとしては、Kudan SLAMを採用して



Zyous Technologiesの配送ロボット

まれる物体の自動検出は、一般的な2次元データにおける物体認識に

比べて大きく精度と効率性が劣っていたが、AP技術を活用し、最新のAIモデルと組み合わせることによって、3次元空間データの意味合いづけや物体認識を実現した。今後の展開について。項 現在当社のビジネスとしては、Kudan SLAMを採用して

島哲志

聞き手・副編集長 浮